国指定史跡 三木城跡及び付城跡・土塁 ウォーキングマップ

三木城本丸跡

三木城跡及び付城跡・土塁の歴史的価値

天正６年（1578）から８年にかけて織田信長と三木城主別所長治の間で行われた三木合戦に関わる城跡と土塁群。戦国期の合戦の過程や全容を具体的に把握する上で重要な史跡です。

三木市立みき歴史資料館

三木城二の丸跡に位置し、史跡のガイダンス施設の役割を担っています。三木の原始古代から現代までの歴史資料を常設展示しているほか、定期的に企画展も開催しています。

問い合わせ

三木市立みき歴史資料館

〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4番5号

TEL. 0794（82）5060

URL https://www.city.miki.lg.jp/site/mikirekishishiryokan/

令和６年９月発行

国史跡 秀吉本陣跡（平井山ノ上付城跡）コース

■コース紹介

三木合戦の際、羽柴秀吉が本陣とした秀吉本陣跡、その本陣の北側の守備を担っていた竹中半兵衛陣所跡などを巡るコースです。

■秀吉本陣跡（平井山ノ上付城跡：平成25年3月国史跡指定）

三木合戦の際、羽柴（後の豊臣）秀吉が本陣とした付城です。美嚢川と志染川の間に挟まれた山上に位置し、南西に三木城を望むことができます。

天正６年（1578）7月、織田信長の長男、信忠が三木城を支援する神吉城や志方城（ともに加古川市）を攻略した後、築城したとされています。8月に羽柴秀吉が入ると、10月15日に津田宗及を招いて茶会を開催しました。同22日に別所方が襲来して合戦が繰り広げられましたが、別所長治の弟別所治定らが討死するなど、別所方の敗北に終わっています。

コース 約6.5km

1時間30分（見学時間を除く）

所要時間の目安

起点 恵比須駅

▼30分

1 竹中半兵衛の墓

▼5分

2 秀吉本陣跡（登城口）

▼10分

3 竹中半兵衛陣所跡

▼45分

終点 恵比須駅

国史跡 三木城を極めるコース

■コース紹介

三木城は東播磨の守護代別所氏の居城で、南側に鷹尾山城、宮ノ上要害などを配置し、三方を崖に囲まれた天然の堅城！！「三木の干し殺し」で有名な三木合戦の舞台となったお城を巡るコースです。

■三木城について

三木城は、東播磨で最大の勢力を誇った別所氏の居城で、台地上に築かれた丘城です。本丸・二の丸を中心に、新城・鷹尾山城・宮ノ上要害などで構成された各曲輪が並立する構造のお城です。城の北側を流れる美嚢川や切り立った崖、南側は山や谷といった自然地形に守られたお城でしたが、天正8年（1580）1月、羽柴秀吉による1年10か月におよんだ兵糧攻めにより、落城しました。

■本丸跡（平成25年3月国史跡指定）

上の丸公園として市民に親しまれている本丸跡には、天守台と伝わる盛土やかんかん井戸の遺構が残っています。また、発掘調査によって、礎石や堀跡、瓦や土師器皿など城の遺構や遺物が地下に残っていることが分かっています。

コース 約 2.5km

❶❷❸❹❺❻❼は裏面地図の遺跡番号と対応しています

35分（見学時間を除く）

所要時間の目安

起点 二の丸跡（みき歴史資料館）

▼2分

1 本丸跡

▼10分

2 鷹尾山城跡

▼10分

3 宮ノ上要害

▼10分

4 雲龍寺

▼3分

終点 二の丸跡（みき歴史資料館）

国史跡 這田村法界寺山ノ上付城跡コース

■コース紹介

法界寺の背後の山頂に位置する這田村法界寺山ノ上付城跡から、朝日ヶ丘土塁（多重土塁）、高木大塚城跡までを巡るコースです。

■這田村法界寺山ノ上付城跡（平成25年3月国史跡指定）

三木と姫路を結ぶ姫路道の南側に建つ法界寺の背後の山上に位置します。北東に三木城跡とその先に羽柴秀吉の本陣平井山ノ上付城跡を見通すことができます。 城主は、秀吉の重臣・宮部継潤と伝わっています。

■朝日ヶ丘土塁（平成25年3月国史跡指定）

朝日ヶ丘土塁は、這田村法界寺山ノ上付城跡の南東部に位置します。織田氏によって築かれたもので、三木城南側の付城群を多重の土塁でつないで、南側封鎖線が構築されています。これは商人による物資搬送、近隣諸勢力や毛利氏などから運ばれる兵糧などを止めて「三木の干し殺し」に決定的な役割をはたしたと考えられます。

コース 約2.5km

1時間10分（見学時間を除く）

所要時間の目安

起点 法界寺

▼10分

1 這田村法界寺山ノ上付城跡

▼10分

2 朝日ヶ丘土塁

▼15分

3 高木大塚城跡

▼35分

終点 法界寺

城下町コース

■コース紹介

城下町エリアに残るお寺や国登録文化財など、独特の風情を残す町屋から往時のの面影を巡る歴史と伝統あふれるまちなかを散策するフリーコースです。

■湯の山街道

有馬道とも呼ばれ、有馬温泉と三木をつなぐ街道です。

江戸時代には、参勤交代に利用されたほど重要な街道であったほか、各地からの湯治客の往来で賑わった街道です。

モデルコース 約４km

1時間5分（見学時間を除く）

所要時間の目安

起点 恵比須駅

▼10分

1 湯の山街道

▼15分

2 三木城本丸跡

▼5分

3 旧玉置家住宅

▼15分

4 三木鉄道記念公園

▼10分

5 旧小河家別邸

▼10分

終点 三木駅

国史跡 ホースランドパーク周辺付城跡コース

■コース紹介

三木合戦の半ばごろ、織田信長の長男、信忠の軍勢が築いたとされる6か所の付城のうち、4か所（明石道峯構付城跡・シクノ谷峯構付城跡・高木大山付城跡・高木大塚城跡）を巡るコースです。

■高木大塚城跡（平成25年3月国史跡指定）

朝日ヶ丘団地隅の一角のホースランドパーク敷地端に立地します。城主は不明です。『播州三木城地図』に描かれています。天正7年（1579）4月に織田信忠の軍勢が築いた6か所の付城の1つである可能性があります。

■明石道峯構付城跡（平成25年3月国史跡指定）

明石道が直下を通過する尾根の先端に位置しています。『播州三木城地図』に描かれています。天正7年4月に織田信忠の軍勢が築いた6か所の付城の1つと考えられます。城主は不明です。

コース 約4.5km

1時間10分（見学時間を除く）

所要時間の目安

起点 道の駅みき

▼20分

1 明石道峯構付城跡

▼15分

2 シクノ谷峯構付城跡

▼10分

3 高木大山付城跡

▼10分

4 高木大塚城跡

▼15分

終点 道の駅みき

三木城概略歷史年表

■別所時代の三木城

別所氏は、播磨守護赤松庶流家に出自をもつ。三木城を築いたのは、三木別所氏の初代当主則治とみられます。長享2年（1488）、赤松政則が播磨・備前・美作の3か国を回復し、則治が三木郡久留美荘を拠点として、東播磨八郡を管轄する守護代に任じられてからと考えられます。

西暦	和暦	日付	出来事
1522	大永 2	10 月 6 日	別所村治、浦上村宗に「別所館」を攻められたが、これを撃退する。
1529	享禄 2	10 月 3 日	村宗に三木城が攻められ、「当城山下、於西之口合戦」におよんだが、反村宗派の牢人衆の活躍により持ちこたえる。
1530	享禄 3	6 月 29 日	村治、柳本賢治とともに加東郡の依藤氏を攻撃するが、賢治が暗殺され、総崩れとなる。村治、三木城から退去する。
1531	享禄 4	6 月頃	村治、三木城に復帰する。
1538	天文 7	11 月 20 日	村治、尼子詮久方により「三木要害」を攻撃されるが、これを撃退する。
1539	天文 8	12 月 25 日	村治、尼子方との戦況がふるわない播磨守護赤松晴政を三木城に迎え入れていたが、村治が尼子方に内通したとの噂が立ったことから、晴政は身の危険を感じ、三木城を退去する。
1554	天文 23	9 月	三好長慶方、別所氏の属城 7 か所を落とす。
		11 月	村治、三好方に三木城を攻められるが、持ちこたえる。
1555	弘治 1	2 月	三好方が撤退する。この後、別所氏は三好方となる。
1567	永禄 10	9 月	別所安治、三好三人衆の求めに応じ、約 1000 の兵を率いて奈良・大坂へ出陣。多聞城に籠る松永久秀を攻める三好三人衆の応援にあたる。
		10 月 10 日	松永方が東大寺に籠る三好三人衆を攻め、これを破る。大仏殿等、兵火により焼失。別所安治軍、永室山法雲院にいたが、自陣を焼いて播磨へ帰国。
1568	永禄 11	10 月頃	別所安治、足利義昭の将軍就任を機に三好氏を離れ、織田信長に属す。
1569	永禄 12	8 月 19 日	織田軍の播磨侵攻に、別所氏も従軍。
1570	元亀 1	1 月	別所小三郎、信長の求めに応じ、上洛。
		10 月以前	別所小三郎、浦上宗景に三木城を攻められる。
1572	元亀 3	4 月以降	別所氏が信長と主従の関係を結ぶ。別所小三郎、信長からその偏諱「長」を拝領して長治を名乗る。
1577	天正 5	10 月 23 日	羽柴秀吉、信長の命を受け播磨へ出陣する。
		12 月 3 日	羽柴秀吉、上月城を攻略。上月城には尼子勝久、山中幸盛らを入れ、その女・子供・老人は人質として三木城に置く。
1578	天正 6	3 月	長治、信長を見限る。秀吉、三木城へ押し寄せ、近隣に火を放つ。
		4 月 1 日	別所方、秀吉に一味した細川荘の領主冷泉為純を攻める。為純が敗死。
1578	天正 6	7 月	神吉城・志方城（加古川市）落城。その後、織田信忠が、秀吉本陣となる平井山ノ上付城など付城数箇所を構築。〈第 1 期の付城構築〉※①
		10 月 15 日	秀吉、「三喜之付城」で茶会を催す。
		10 月 22 日	平井山合戦。別所治定（長治の弟）が討死。
1579	天正 7	2 月	別所長治の「詫言」を秀吉が拒否。
		4 月 26 日	織田信忠、新たに付城 6 か所を構築。〈第 2 期の付城構築〉※②
		5 月	丹生山陥落。淡河城も落城。淡河城主、三木入城。
		6 月 13 日	秀吉の軍師、竹中半兵衛死去。
		9 月 9・10 日	平田大村合戦。安芸・雑賀・播磨の軍勢が、三木城への兵糧搬入を試みる。これに別所方からも兵を出し、秀吉勢と交戦する。秀吉方の谷大膳が討死。別所方も多数の武将が討ち取られる。
		10 月 7 日	秀吉、新たに付城を築き、三木城の包囲を狭める。〈第 3 期の付城構築〉※③
1580	天正 8	1 月 17 日	長治ら、切腹し、三木城落城。その後、杉原家次が三木城主となる。
1583	天正 11	6 月頃	前野長康、播磨国主羽柴秀長の配下として、「東郡三木城」に配される。
1585	天正 13	閏 8 月 10 日	中川秀政、摂津茨木城から「東郡三木城」に配される。
1592	文禄 1	10 月	秀政、文禄の役時、朝鮮にて戦死。弟の秀成が三木城主となる。
1594	文禄 3	2 月	中川秀成、豊後岡城主として国替。三木は豊臣氏の蔵入地となる。
1595	文禄 4	9 月 18 日	但馬豊岡城主福原長成、三木の代官として雲龍寺に禁制を交付する。
1600	慶長 5		関ヶ原合戦後、池田輝政が姫路城主となる。三木城は姫路城の支城となり、家老伊木忠次が三木城主となる。
1603	慶長 8		伊木忠次死去により、子の忠繁が跡を継ぐ。
1615	元和 1		一国一城令が命じられる。これにより三木城も廃城の運びとなる。
1617	元和 3		小笠原氏が明石に入部。それに伴い、明石築城の間、家臣団が三木に居住。
1620	元和 6		小笠原家臣団が明石に移住。これにより、在郷町三木が成立する。

※①三木城攻めへの足がかりとするため、三木城の東から北側の丘陵上に付城を構築

※②毛利軍の兵糧搬入を阻止するため、南側の山上に付城及び包囲網のための土塁を築く。

※③三木城を力攻めで攻略するため、主要街道を押さえた最前線の付城を構築

小林八幡神社付城跡コース

■コース紹介

三木合戦の半ばごろ、織田信長の長男・信忠の軍勢が築いたとされる6か所の付城のうち、2か所（小林八幡神社付城跡・明石道峯構付城跡）を巡るコースです。

■小林八幡神社付城跡（平成25年3月国史跡指定）

別所町小林の八幡神社境内及びその周辺に位置しています。天正7年（1579）4月に織田信忠の軍勢が築いた6か所の付城の1つと考えられます。城主は不明です。

■八幡谷ノ上明石道峯構付城跡

明石道の東尾根上に位置しています。天正7年10月7日に包囲網を縮小して築かれた「南八幡山」（『播州御征伐之事』）に相当すると考えられます。城主は『播磨鑑』・『別所軍記』によると、問島氏勝・福原長尭とされています。

コース 約5.5km

1時間20分（見学時間を除く）

所要時間の目安

起点 志染駅

▼25分

1 小林八幡神社付城跡

▼20分

2 明石道峯構付城跡

▼15分

3 八幡谷ノ上明石道付城跡を望む

▼20分

終点 三木駅